

平成27年度

工業標準化事業表彰

平成27年10月5日

経 済 産 業 省

目 次

1. 工業標準化事業表彰 内閣総理大臣表彰	(個人 1名)	1
2. 工業標準化事業表彰 経済産業大臣表彰 (個人)	(個人 20名)	2
3. 工業標準化事業表彰 経済産業大臣表彰 (組織)	(組織 2組織)	9
4. 国際標準化貢献者表彰 産業技術環境局長表彰	(個人 17名)	10
5. 国際標準化奨励者表彰 産業技術環境局長表彰	(個人 6名)	16
6. 工業標準化功労者表彰 産業技術環境局長表彰	(個人 2名)	18

平成27年度工業標準化事業表彰 内閣総理大臣表彰受賞者

野間口 有(のまくち たもつ)
三菱電機株式会社 相談役

【略歴】

1965年 三菱電機株式会社入社
1997年 三菱電機株式会社 常務取締役 開発本部長
2001年 三菱電機株式会社 代表取締役 専務取締役
2002年 三菱電機株式会社 代表取締役 取締役社長
(2003年 代表執行役 執行役社長 取締役)
2003年 内閣知的財産戦略本部 本部員
2006年 三菱電機株式会社 取締役会長
2007年 日本知的財産協会 会長
2009年 日本工業標準調査会 会長
独立行政法人(現 国立研究開発法人)産業技術総合研究所 理事長
(2013年～ 最高顧問)
2013年 三菱電機株式会社 相談役

【主な功績】

1. 内閣知的財産戦略本部にて、2003年の第1回会合以降、国際標準化の重要性を説き、「国際標準総合戦略」の策定をはじめとして、「国際標準化の推進」を日本の重要施策である「知的財産推進計画」の主要な柱に位置付ける原動力として尽力。
2. 2009年以降、日本工業標準調査会の会長として、日本の国際標準化活動の陣頭指揮をとり、国際標準化機関の日本人会長・副会長の就任や日本人国際幹事数の増大を実現するとともに、IEC(国際電気標準会議)の適合性評価評議会での日本の常任委員化を実現するなど国際標準化活動における日本の地位向上に大きく貢献。国内においても、国際標準化アクションプランの策定やその実行、標準化官民戦略会議の活動を通じて、日本の国際標準化活動の更なる推進を牽引。
3. 2014年には、IEC大会の日本開催(IEC東京大会)を15年ぶりに実現。国内外約2,600名の参加者を得て、シンポジウム、展示会、テクニカルビジット等の従来にない取組みにより日本の技術力と国際標準化活動への取組みを世界に強くアピールし、日本のプレゼンスを向上させるなど、IEC東京大会組織委員会委員長としてIEC東京大会を成功裏に開催させた功績。

【受賞等】

2015年 「知財功労賞」経済産業大臣表彰 知的財産権制度関係功労者表彰

[敬称略]

平成27年度工業標準化事業表彰経済産業大臣表彰受賞者

個人

NO	氏名	所属	主な功績
1	あおき まさみ 青木 正己	一般社団法人日本 ゴム工業会 ISO /TC45国内 審議委員会 事務 局長	ISO/TC45（ゴム及びゴム製品）/SC2（試験及び分析）の国際幹事に日本として初めて就任。数多くの改革を大胆に進めると共に他のSCとの連携した改革や他のTCとの連携強化を進め、“よりシンプルで使い易い規格をより速く生み出す事を実現”し、Eicher賞を受賞。国際幹事国としての日本の信頼を大きく高めつつ15件の日本提案を含め58件の国際規格を発行。TC45国内審議委員会の事務局長を兼務、日本の将来展望に基づくテーマを掘り起し、19件のJIS発行と13件の日本主導の国際規格発行など国際標準化へ多大な貢献。
2	あかまつ もとゆき 赤松 幹之	国立研究開発法人 産業技術総合研究 所 情報・人間工 学領域自動車ヒュー マンファクター 研究センター 首 席研究員	ISO/TC22（自動車）/SC13（人間工学）/WG8（ITS機器のヒューマンインタフェース）において警報情報の統合の共同議長（コンビナ）を9年務め、標準策定を主導、新技術の普及に貢献。日本工業標準調査会標準部会消費生活技術専門委員会臨時委員を9年務め、人間工学専門家の立場から、多くの人にとってわかりやすく使いやすいものとなるように、数多くのJIS策定に貢献。また、各種標準化研究を統括し、アクセシブルデザイン（高齢者・障害者対応）規格や映像の生体安全性に係る数々のISO規格発行に尽力。
3	あさい こうたろう 浅井 光太郎	三菱電機株式会社 コミュニケーション・ネットワーク 製作所 主管技師 長	映像符号化に係る国際及び国内の委員会に参加し、技術提案を行って規格策定に貢献するとともに、国内委員会幹事、日本代表団長などを務め、国内の意見集約及び運営に尽力。また、2006年以降、ISO/IEC JTC1/SC29（音声、画像、マルチメディア、ハイパーメディア情報符号化）の国際議長として標準化を牽引するとともに効率的な運営、日本のプレゼンス向上に尽力。自ら技術提案を行った標準及び議長として担当した標準は世界の映像音響機器やサービスに活用されており、市場・産業の興隆へ多大な貢献。

NO	氏名	所属	主な功績
4	いよいよま あきひろ 飯山 明裕	国立大学法人山梨大学 燃料電池ナノ材料研究センター センター長 教授	IEC/TC21(蓄電池)/JWG69 Li(自動車用リチウム電池)議長として、強力なリーダーシップと公正かつ的確な判断により、自動車用電池分野における国際標準化を日本主導で推進し、日本の電池・自動車業界にとって有利な国際標準の実現と、市場における不利益の回避に大きく貢献した。また、ISOにおける関連規格審議に参画し、電池システム全体の標準試験適正化に貢献。
5	いとう ひろき 伊藤 弘基	三菱電機株式会社 電力・産業システム事業本部 技師長	送変電に関する技術的課題を討議する代表的国際機関であるCIGRE(国際大電力システム会議)における技術報告書の取りまとめに日本代表委員として参画し、その知見を基にIEC/TC17(高圧開閉装置及び制御装置)に参画。遮断器の試験規格及び制御規格の規格策定を主導し、その技術レベルの適正化に尽力。また、超高電圧の国際標準化においても、CIGREのWG主査として18か国との議論を踏まえた技術報告書を取りまとめ、その技術報告書はIEC/TC17において活用され、関連規格の改正に大きく貢献。
6	うじた りょうた 氏田 良太	パナソニック株式会社 環境・品質センター 安全・品質部 主幹	IEC/TC61(家庭用電気機器の安全性)の日本代表を7年務め、IEC60335(家電の安全)の改正に対応し、日本の規格改正提案9件作成と日本の製品に不利益な提案39件の意見調整を主導。特に、インバータエアコン、温水洗浄便座など、日本に強みのある製品の安全要求事項の適正化等により海外市場の確保に大きく貢献。また、IEC/TC61/WG29(天井扇懸垂器)の日本代表委員として、落下事故が頻発していた天井扇の落下防止の国際規格制定に積極的に取り組み、マレーシアと連携し原案作成を主導するなど、国際標準化活動に多大な貢献。
7	おおまき かずひと 大蒔 和仁	学校法人東洋大学 総合情報学部総合情報学科 教授	日本工業標準調査会情報技術専門委員会委員長として、我が国の情報技術のJIS化に貢献。またISO/IEC JTC1国内技術委員会の委員長を務め、多岐にわたる技術の国内意見の集約を図るとともに、JTC1の年次総会では、日本代表団長を務め日本の意見の反映に尽力。また、JTC1/SC2(符号化文字集合)国内専門委員会などの複数の委員会の委員長を務め、文字コードの標準化を推進。

NO	氏名	所属	主な功績
8	かなだ とおる 金田 徹	学校法人関東学院 関東学院大学 理 工学部理工学科 教授	産業全般に関わる共通基盤的な製図、製品の幾何特性分野において、国内外の標準化活動に大きく貢献。特に、日本が優位に立つ3Dデジタル技術及びそれを適用した製図方法の標準化を他国に先んじて取り組み、国際標準化活動を牽引。ISO/TC10（製品技術文書情報）、TC213（製品の寸法・形状の仕様及び評価）の日本代表として積極的な活動を推進。エキスパート、コンビナとして広く活躍するとともに、3D-CADを活用した3D製図の関連規格の国際標準化に向けプロジェクトリーダーとして主導。
9	こやま けいいち 児山 啓一	株式会社アイ・デ ザイン 代表取締役	ISO/TC145（図記号）/SC1（案内図記号）の国内委員会の主査を務めるほか、JIS Z 8210（案内用図記号）等にエキスパートとして関与し、国内外の図記号・絵記号の標準化に貢献してきたほか、我が国が案内用図記号標準化の国際的なリーダーシップを確立することにも尽力。TC145総会の日本招致を働きかけ、2015年には東京開催が実現。また、ISO/TC173/SC7/WG4（アクセシブルデザイン：コミュニケーション支援ボード）のコンビナを務め、バリアフリーやユニバーサルデザインにおける標準化の推進にも貢献。
10	すが しげお 須賀 茂雄	スガ試験機株式会 社 代表取締役社 長	ISO/TC35（塗料）、TC38（繊維）、TC42（写真）、TC61（プラスチック）、TC79（軽金属）、TC107（めっき）、TC156（金属）、IEC/TC104（環境試験）など、数多くのTCのエキスパート、プロジェクトリーダーとして国際規格の策定等に多大な貢献。特に、我が国が優れた技術及び評価装置を有する耐候・腐食試験方法の国際標準化において、100件以上の国際規格の制定・改正を主導し、我が国の産業競争力強化に大きく寄与。

NO	氏名	所属	主な功績
11	たなか ひろし 田中 裕	公益財団法人鉄道 総合技術研究所 鉄道国際規格セン ター センター長	ISO/TC269（鉄道分野）及びIEC/TC9（鉄道用電気設備とシステム）の国内委員会委員長や日本代表など数多くの要職を務め、鉄道に関する国際標準化活動を主導。欧州勢がプレゼンスを発揮している中で、日本発の新規規格提案（計7件）の採択への貢献や欧州規格を基に発行されたIEC規格の改正手続きのルール策定への貢献、鉄道に関する国際規格の国内外への普及及び啓発活動への貢献等、我が国の鉄道業界の発展に多大な功績。
12	なかむら はじめ 中村 一	一般社団法人日本 鉄鋼連盟 標準化 センター事務局 主査	ISO/TC17/SC9（ぶりき及びぶりき原板）の国際幹事及びプロジェクトリーダーを務め、ぶりき製品JISの国際統合化に尽力し、国際取引の円滑化に多大な貢献。また、TC17/SC12（連続圧延薄板）日本代表として34もの国際規格策定に貢献したほか、日本鉄鋼連盟鋼材規格検討会の薄板及びめっき分科会主査として、めっき鋼板JISの規格体系化等の困難な調整を主導。さらに、日本工業標準調査会（金属・無機材料技術専門委員会）委員、日本規格協会規格調整分科会専門委員を務める等、工業標準化に対する貢献は顕著。
13	はらだ こう 原田 晃	地方独立行政法人 東京都立産業技術 研究センター 理事 国立研究開発法人 産業技術総合研究 所 名誉リサーチ ャー	ISO/TC147/SC2/WG67（海水のpH）のコンビナを務め、「海水中のpH高精度測定法」について日本から提案、規格化を主導するとともに、同SCのWG54（海洋中のアルカリ度測定）においてもコンビナ補佐を務め、CCS技術による海底下地下帯水層への二酸化炭素貯留による海水への影響について、より高感度のモニタリングの実現に貢献。さらに、日本工業標準調査会（環境・資源循環専門委員会）の臨時委員を務め、環境分野に資するJISの制定・改正に関わり、我が国の環境対策の向上に大きく貢献。

NO	氏名	所属	主な功績
14	ふじもと よしお 藤本 佳夫	トヨタ自動車株式会社 FC技術・開発部 グループ長	ISO/TC22（自動車）/SC21（電気自動車、現SC37）/WG2（性能）において、コンビナとして、ハイブリッド電気自動車の排出ガス及び燃費試験法（ISO23274-1：外部充電無し。ISO23274-2：外部充電有り）、及び燃料電池自動車の燃費試験法（ISO23828）などの制定を主導。いずれのISOも日本の技術を基に、電動車両技術の進化を促すための日本提案を反映させている。これらの規格は、現在審議中の国連基準（GTR）の原案にもなっており、日本の自動車技術を世界に広めることに大いに貢献した。
15	むねちか まさひこ 棟近 雅彦	学校法人早稲田大学 理工学術院創造理工学部経営システム工学科 教授	ISO規格として世界中で広く普及しているISO9000シリーズの規格開発に対し、1996年から今日までISO/TC176（品質管理及び品質保証）の日本代表エキスパートとして活躍。特に、2015年9月に発行されたISO9000及びISO9001の2015年改正版に対し、我が国の意見を反映させるなど多大な貢献。JIS化などを含め、品質マネジメントシステムの普及を通して、社会的な信頼や顧客満足の向上、信頼関係に結ばれた取引環境の醸成などを通して、我が国の企業競争力の強化に大きく寄与。
16	よこやま あきひこ 横山 明彦	国立大学法人東京大学 新領域創成科学研究科・先端エネルギー工学専攻 教授	日本工業標準調査会標準第二部会部会長として、IoT等システムに関する新たな国際標準化活動への対応、2014年IEC東京大会を踏まえたIEC大会の次回日本開催の方針決定等において、多大な貢献。また、スマートグリッド国際標準化戦略分科会においては、日本工業標準調査会で初めて電気・電子・情報に跨がる横断的な分野の分科会長として、標準化推進にも多大な貢献。さらに、IEC/TC8（電力供給に関わるシステムアспект）の日本代表として日本の先進的な電力技術である超高電圧技術の市場拡大に尽力。

NO	氏名	所属	主な功績
17	よしお じゅんいち 由雄 淳一	パイオニア株式会社 研究開発部	IEC/TC100/TA11 (AVマルチメディアシステムのクオリティ) の国際議長を長きにわたり務め、また、多数の国際標準開発のプロジェクトリーダーとして、デジタルオーディオ、ビデオ、データ伝送等の国際標準化に貢献。特に、DVDを市場導入するために必要なオーディオ信号を伝える機能の国際標準化に尽力。この規格は、デジタル放送やBlu-rayに利用され、我が国のみならず世界のAV産業界の発展に多大な貢献。
18	よしかわ ひでたか 吉川 秀隆	前 日本歯科材料 器械研究協議会 会長	ISO/TC106 (歯科) が作成した国際規格の多くは日米欧において国内規格化され当該国の強制法規にも引用される重要な規格群であるが、氏は本TCの国内審議団体の会長として、今後市場の拡大が予想されるSC9 (歯科用CAD/CAMシステム) の我が国からの設立提案、幹事国引受を主導するなど、歯科分野の国際標準化における発言力向上に多大な貢献。さらに、自社において社内の標準化活動を統括し、多数の社員による国際標準化活動への積極参加を推進。
19	よしだ こういち 吉田 孝一	一般社団法人日本 電機工業会 技術 部 担当次長	風力や太陽光等の再生可能エネルギー関係機器をシステムとして認証する、IEC初となるシステム認証制度のIECREの発足に対し、国内の多種多様な関係者と調整し、国内審議体制の迅速な整備に尽力。日本がIECREの発足に関わり、その制度設計に深く関与する機会を得る等、再生可能エネルギーシステムに係る産業の競争力強化に資する環境整備に貢献。また、日本工業標準調査会の臨時委員等を長年務め、特に安全に係るJISの審議に尽力。

NO	氏名	所属	主な功績
20	よしだ ひでと 吉田 英人	国立大学法人広島 大学 大学院工学 研究院 教授	ISO/TC24（粒子特性評価及びふるい）／ SC4（粒子特性評価）／WG2（分級及び沈降 法）、WG11（試料調整及び標準粒子）の両WG においてコンビナ補佐として国際規格の策定を主 導。液中沈降質量法による粉体の粒子径分布測定 方法をはじめ、日本提案にあたっては牽引役とし て国際規格への反映に尽力。また、日本提案の基 となるJIS開発においても原案作成委員長等の 主導的な役割を果たすとともに、広く粒子径等の 測定方法や標準粒子の開発・普及に尽力し、関連 産業の発展に大きく貢献。

[五十音順、敬称略]

組織

NO	組織名	主な功績
1	公益社団法人消費者関連専門家会議	<p>企業における消費者対応部門の体制構築、運営マネジメントの指導規格としてのJIS Z 9920（苦情対応の指針）作成に主体的に関与。規格作成後、規格解説やガイドブックを編纂し、消費者と企業の信頼関係を重視する消費者志向経営を普及。さらに、同規格の国際標準化を目指し、2005年にはISO 10002（品質管理—顧客満足—苦情対応の指針）として国際規格化を実現。消費者と企業の信頼関係の向上と消費者が安心して購買、消費できる健全な消費社会の実現に向けた企業活動の促進に大きく寄与。</p>
2	大成プラス株式会社	<p>同社が保有するNMT技術（接着剤を使用することなく樹脂と金属を強固に接合させる技術）の特性評価試験方法の国際標準化に尽力。国際標準化の知見がない状態から、トップスタンダード制度を活用して、ISO/TC 61（プラスチック）/SC 11（製品）に新規作業項目を提案。海外からの反対意見等にも堅実に対応し、提案承認から2年で国際規格発行を実現。今後、当該技術の自動車部品への応用など、新たな市場の創造に期待。</p>

[五十音順]

平成27年度国際標準化貢献者表彰（産業技術環境局長表彰）受賞者

NO	氏名	所属	主な功績
1	あさだ やすし 浅田 泰司	—	1992年に日本がJISとISOの統合化を始めた際には国内ゴム業界に対してその必要性を力説し業界の合意を得ると共に、1996年に同国内審議委員会を設立する際の中心的な役割を果たす。また、22年間に渡りISO/TC45（ゴム及びゴム製品）国内審議委員会の主査や委員として、ゴム関連のJISとISO分野において標準化に貢献し多くの規格開発を主導。長きにわたり、精力的な活動を続け若手の良き模範として活躍し、日本がSC2の国際幹事国になるに至る礎を築くなど、日本ゴム産業の国際標準化に果たした先駆者としての功績は極めて多大。
2	いしい かずふみ 石井 一史	三菱電機株式会社 パワーデバイス製作所 応用技術部 応用技術第一グループ 専任	IEC/TC47/SC47E（個別半導体）/WG3（電力用半導体）の国内委員会主査として、電力用半導体規格群（整流ダイオード、サイリスタ、絶縁型電力半導体）の改訂に際し、日本提案を取りまとめ、WG3のエキスパートとして欧州勢との調整を行いながら、コンセンサスを得てその規格に対する日本意見の反映に尽力するなど、国際標準化活動の強化に貢献。
3	おかもと まさひで 岡本 正英	株式会社日立製作所 研究開発グループ 生産イノベーションセンター 主管研究員	IEC/TC91（電子実装技術）の国際幹事として、30件以上（うち日本提案15件）のIEC規格を制定するとともに、7件の日本新規提案をサポートするなど、国際標準化活動推進と我が国産業界の国際標準化に大いに貢献。また、IEC/TC91/WG2（実装プロセス）のエキスパートとして、日本にとって極めて不利な「部品、基板、実装済み基板に関するマーキング、ラベリング」規格案IEC 62588の規格化阻止に中心的な役割を果たした。

NO	氏 名	所 属	主 な 功 績
4	おの こしろう 小野 古志郎	一般財団法人日本 自動車研究所 安 全研究部 技監	1989年から26年にわたり、安全部会委員、 衝撃保護分科会・前突分科会の委員等として、ま た、ISO/TC22/SC10（衝突試験方法）、 SC12（乗員保護装置）及びWG7（事故調査 分析手法）の日本代表・エキスパートとして活躍。 特に、ISO6546（乗員高速性能評価のため の事故データ収集法）、ISO12353規格群 （イベントレコーダーを活用した事故解析と安全 性評価法など）において、日本として80件以上 の意見取りまとめを行い、世界及び日本の自動車 安全向上の基礎となる自動車交通事故データ収 集、解析の標準化に大きく貢献。
5	かねこ いたる 金子 格	学校法人東京工芸 大学 工学部コン ピュータ応用学科 准教授	20年にわたりISO/IEC JTC1/SC 29（音声、画像、マルチメディア、ハイパーメ ディア情報符号化）及びSC29/WG11（動 画像符号化）に専門家として参画し、その間、ア ドホックグループ議長にも歴任。また、国内委員 会の主査、JIS化委員等も務め、シンセサイザ ー技術・音声合成技術・携帯グラフィックス技術・ インターネット配信技術など、多様な背景の国内 企業・研究機関からの広範な提案の調整、取りま とめを行い、標準化に貢献。
6	こんどう たかひこ 近藤 孝彦	一般財団法人日本 品質保証機構 北 関西試験センター 副参事	IEC/TC108（オーディオ・ビデオ、情報 技術、通信技術分野における電子機器の安全性） の国内委員会幹事を務めるとともに、エキスパー トとして国際会議に出席し、長年、AV・IT機 器の安全規格の審議・制定に国内外と幅広く貢献。 特に、IEC62368-1やIEC60950 シリーズ規格の審議において、各国エキスパート との意見調整を図りながら、日本提案をその規格 に反映することに尽力。

NO	氏 名	所 属	主 な 功 績
7	さくらい ひろむ 桜井 博	国立研究開発法人 産業技術総合研究 所 計量標準総合 センター物質計測 標準研究部門粒子 計測研究グループ 研究グループ長	<p>気中ナノ粒子計測技術の専門家として、自身の研究成果を活かし当該分野の国際標準化をリード。ISO/TC24（粒子特性評価及びふるい）/SC4（粒子特性評価）/WG12（エアロゾル粒子の電気移動度分析及び個数濃度計測）において、エキスパート、共同コンビナ、プロジェクトリーダーとして規格作成を主導。ISO/TC229（ナノテクノロジー）やISO/TC146（大気の状態）/SC2（作業環境）における複数のWGにおいてもエキスパートを務め、急速に利用分野が広まりつつある当該計測技術の発展と普及に大きく貢献。</p>
8	しばた じゅん 柴田 潤	一般財団法人日本 デジタル道路地図 協会 研究開発部 特別研究員	<p>ISO/TC204（高度道路交通システム）/WG3（ITSデータベース技術）のエキスパート、コンビナ及び国内対応分科会長を長きにわたり務め、地理データファイル、位置参照方式、車載地図データベース等の国際標準策定に尽力。地理データファイルではUMLモデル記述技法の導入や自動運転システム等の新規要求を反映するための国際標準化を推進。位置参照方式では日本VICSセンタ仕様の包含や日本独自開発方式の採用を実現。ローカルダイナミックマップ等の新規要求を反映するため協調ITSに対応する車載地図データベース仕様拡張の国際標準化を推進。</p>
9	しんき ひろゆき 進木 博之	株式会社ファルテ ック グローバル 開発部実験課 課 長	<p>ISO/TC22（自動車）/SC17（運転視界）、SC17/WG2（CMS：カメラモニタシステム）のエキスパート及び国内分科会幹事を長きにわたり務め、国内外での運転視界及びCMS標準の策定に尽力。国内OEM及びCMS関連会社と連携し、標準策定審議では我が国が強みをもつカメラ技術の規格案を提案して国際的にリード。このCMS標準は高い信頼性確保に寄与し、国際連合欧州経済委員会規則にも引用されて、国内外の自動車産業の基盤技術向上に多大なる貢献。</p>

NO	氏名	所属	主な功績
10	たけうち やすあき 竹内 康晃	中央発条工業株式会社 代表取締役社長	ISO/TC227（ばね）のISO26910-1（ばねのショットピーニング パート1）発行にプロジェクトリーダーとして尽力。本規格は我が国がJISを基に提案した。我が国を始めアジア圏で多く流通しているショット球（ショット材料）が欧州圏では馴染みがないものであったため当初は全く受け入れられず、粘り強く交渉を重ね使用可能となり規格化された。我が国の産業国際競争力確保及びTC227創設後初めての国際規格発行に多大なる貢献。さらに、国内委員会委員として10年以上ばねの国際標準化活動に貢献。
11	たんぼ まさひろ 反保 昌博	株式会社村田製作所 市場渉外部市場渉外課 エキスパート	JEITA内全ての電子部品の標準化関連12委員会を統括する標準化専門委員会の主査及びIEC/TC40（電子機器用コンデンサ及び抵抗器）国内委員長として標準化活動に尽力。また、半導体を含む電子部品全体の包装容器を扱うIEC/TC40/WG36（包装）の国際コンビナとして日本の得意とする超小形部品を取り入れたIEC60286-3の改正に尽力。さらに、日本が幹事国のIEC/TC91（電子実装技術）のエキスパート兼バックアップ委員会の副委員長としてIEC61760-4などの日本の意見を反映した規格作成に貢献。
12	ひらつか のぶゆき 平塚 信之	国立大学法人埼玉大学 名誉教授	IEC/TC51（磁性部品及びフェライト材料）での日本提案を積極的に推進し、その多くを規格化。TC51国内委員会委員長及びWG1（フェライト及び圧粉磁心）主査を18年余り務め、日本の国際幹事国としての適時な助言を含めた、委員会リーダーとして多大な功績。また、日本の先行技術であるノイズ抑制シートのワーキンググループWG10（EMC対策磁性材料、部品）を設立し、国際標準化を積極的に推進。また、2014のTC51東京会議において、日本から11件の新提案の提出を行うなど、その成功に大きく貢献。

NO	氏名	所属	主な功績
13	ふしみ さとし 伏見 諭	一般社団法人情報サービス産業協会技術強化委員会標準化部会 部会長	ISO/IEC JTC1/SC7（ソフトウェア及びシステム技術）のWG24（小規模組織のソフトウェアライフサイクル）において、日本の主査としてプロセス改善をガイドする規格の制定を提案。さらに、各産業分野で小規模企業がソフトウェア信頼性に資するプロセス基準を設定しやすいようにする規格の制定をエディタとして推進するなど、国際標準化に貢献。また、ISO/IEC JTC1/SC27（セキュリティ技術）向け特別リエゾングループを長年統括し、ソフトウェア技術とセキュリティ技術の連携を国際的に強化・推進。
14	まつおか こういち 松岡 光一	公益財団法人共用品推進機構 業務部国際業務課 リーダー	高齢者・障害者の配慮に関する規格（アクセシブルデザイン規格《AD》）の根幹となるISO/IECガイド71（規格におけるアクセシビリティ配慮のためのガイド）の改訂に関し、各国の代表者から積極的に意見を収集し丁寧に説得を重ね、最終的にすべての関係者が納得いくような形にまとめた。多数のAD規格の国際幹事及びWGコンビナ兼プロジェクトリーダーとして、各国と連携し標準化推進をリードするなど収束が難しい状況であっても、終始冷静に対応し、決着させるなど功績は多大。
15	まつなが かずひこ 松永 和彦	いすゞ自動車株式会社 電装制御開発部 シニア・スペシャリスト	JOINT ISO/TC22（自動車）-TC146（大気）/SC6（室内空気）/WG13（車室内揮発性有機化合物）のエキスパート及び対応国内分科会長を長きにわたり務め、他国が開発をリードしていた車室内空気質測定法において、世界に先行していた日本の技術を規格内容に盛り込むべく尽力。結果、主張は規格へ反映された。長年の標準化活動によって、日本国内の車室内空気質に関する規格を整備することはもとより、国際的には日本のプレゼンスを向上することに大きく貢献。

NO	氏名	所属	主な功績
16	もろの ひろし 諸野 普	寺崎電気産業株式会社 システム事業マーケティング部 シニアアドバイザー	1999年にISO/TC8/SC10（コンピューターアプリケーション）のエキスパートに就任して以降、2000年からは我が国が議長及び幹事国を務めるISO/TC8/SC6（航海及び操船）の国内対応委員会委員に就任し、多数の我が国提案国際規格の作成に関与。2010年からはISO/TC8/SC6/WG16（船内機器用情報系ネットワーク装備指針）のコンビナにも就任し、その功績は国内だけでなく国際的にも顕著である。
17	やました のぶよし 山下 信義	国立研究開発法人産業技術総合研究所 エネルギー・環境領域環境管理研究部門海洋環境動態評価研究グループ 上級主任研究員	ISO/TC147（水質）/SC2（物理的・化学的・生物的方法）/WG56（PFOS及びPFOA）において、「水中のペルフルオロオクタンスルホン酸及びペルフルオロオクタン酸試験方法」を日本から提案、コンビナとして規格化を主導し、国際的な規制の議論を踏まえて国際規格を制定。また、ノニルフェノールや揮発性環状メチルシロキサンなど、水質の環境管理を行う上で重要となる化学物質の分析技術に関する国際標準化活動において、コンビナ補佐やエキスパートを務めるなど幅広く貢献。

[五十音順、敬称略]

平成27年度国際標準化奨励者表彰（産業技術環境局長表彰）受賞者

NO	氏名	所属	主な功績
1	あめみや くにあき 雨宮 邦招	国立研究開発法人 産業技術総合研究 所 計量標準総合 センター物理計測 標準研究部門レー ザ放射標準研究グ ループ 主任研究 員	光測定に関する国家計量標準を研究開発してきた専門性を生かし、IEC/TC86（ファイバオプティクス）/WG4（光測定器校正）のエキスパートを務め、IEC規格への日本提案の反映に尽力。特にIEC62522:2014 Calibration of tuneable laser sources（波長可変レーザ光源校正方法）ではプロジェクトリーダーを務め、NWIP（新業務項目提案）採用から国際規格化への進展を図るとともに、国内委員会にも参画して翻訳JIS化等の整備にも貢献。今後の更なる活躍が期待される。
2	おぐれ たくや 尾暮 拓也	国立研究開発法人 産業技術総合研究 所 ロボットイノ ベーション研究セ ンター 主任研究 員	ISO/TC184（オートメーション及びインテグレーション）/SC2（ロボット及びロボティックデバイス）のWG7（サービスロボットの安全性）におけるISO13482（サービスロボットの安全要求事項）の制定において、機械安全及び機能安全の専門家として貢献。また、日本提案に基づき現在WG7で審議中の生活支援ロボットの安全関連試験方法では、プロジェクトエディタとして貢献。今後の更なる活躍が期待される。
3	くろかわ しんぺい 黒川 晋平	横河電機株式会社 マーケティング本 部知財標準化戦略 センター標準化戦 略室	IEC/TC65（工業用プロセス計測制御）/WG16（デジタルファクトリ）においてエキスパートとしてIEC/TR62794（デジタルファクトリ）の発行に貢献。さらに、当該TRの国際規格化に向けた活動にも参画し、その国際会議の日本招致及び開催ホスト役として尽力し、日本意見の反映に貢献。また、TC65/JWG14（エネルギー効率）においてエキスパートとしてISO/IEC20140-5（環境影響評価のためのデータ）の一部を担当しその開発に尽力。今後の更なる活躍が期待される。

NO	氏 名	所 属	主 な 功 績
4	なべしま こうた 鍋 厚太	CYBERDYN E株式会社 研究 開発部門 研究員	ISO/TC184（オートメーション及びインテグレーション）/SC2（ロボット及びロボティックデバイス）のWG7（サービスロボットの安全性）におけるISO13482（サービスロボットの安全要求事項）の制定及び、JWG9（ロボット技術を利用した医療機器の安全性）におけるIEC/TR60601-4-1（医療用電気機器及びシステムの自律性のガイド及び解釈）の制定において、装着型サービスロボットメーカーの立場から積極的な提案等を行って貢献。今後の更なる活躍が期待される。
5	まつい たかし 松井 隆	日本電信電話株式 会社 アクセスサ ービスシステム研 究所 主任研究員	IEC/TC86（ファイバオプティクス）国内委員会幹事補佐及びIEC/SC86A（光ファイバ・光ファイバケーブル）エキスパートとして国内委員会の主催・運営と国際会合への継続的な参加とともに、IEC東京大会2014における招致等を始めとする国内外の調整・対応や多数の文書処理を遅滞なく実施する等、TC86国内委員会の要として活躍。また、光ファイバ・ケーブルの試験法・製品規格について日本規格・製品に基づく新規提案を行い、プロジェクトリーダーを務めるなど、今後の活躍が期待される。
6	まつもと れいた 松本 怜大	一般財団法人日本 船舶技術研究協会 基準・規格グルー プ規格ユニット規 格チーム	2008年よりISO/TC8（船舶及び海洋技術）を始めとした船舶に関するISO国際委員会の国内対応委員会事務局として、国内関係者の意見を集約し、毎年約70件の日本回答を行っている。また、これまで19回のISO国際会議に参加し、日本代表団長を務めた経験もある。2015年からはその功績が国際的に高く評価され、ISO/TC8/SC1（救命及び防火）/WG3（防火）のコンビナに就任しており、今後、一層の活躍が期待される。

[五十音順、敬称略]

平成27年度工業標準化功労者表彰（産業技術環境局長表彰）受賞者

NO	氏名	所属	主な功績
1	とやま 外山 りょうせい 良成	一般財団法人製造科学技術センター 国際標準部 部長	ISO/TC184（オートメーションシステムとインテグレーション）及びISO/TC184/SC5（アーキテクチャ、通信とフレームワーク）傘下の各WG国内対策委員会の事務局として、我が国提案の国際規格ISO16100シリーズを始めとする産業オートメーションシステムの国際標準化活動に参画。生産システム、特に自動化工場内の制御、管理に関わる標準化に尽力し、我が国製造業の生産性向上に貢献。また、米国と共同でISO18435シリーズを開発し、生産工場の運転管理とメンテナンスの効率向上に寄与。
2	にしおか 西岡 しげのり 成憲	水野ストレーナー工業株式会社 顧問	約17年間にわたり、船用バルブ及びこし器に係る約23件の船舶部門JIS規格の策定に貢献、取引の単純化のほか、製品の互換性、安全・安心の確保及び調達等に大きく寄与。また、近年は、船舶及び海洋技術に関する国際・国内標準への基本対応方針の討議を行う国内上部委員会の委員として、環境及び次世代二次電池に関するJIS規格の開発など、幅広い分野における標準化活動に貢献。

[五十音順、敬称略]

